

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和4年度第6回 理事会 議事録

日時：令和4年7月11日（月）14:00-15:30

場所：山梨大学大学院整形外科学講座／Zoom

【出席した理事】伊東 学、大鳥 精司、小田 剛紀、金村 徳相、川口 善治、
高橋 寛、竹下 克志、田中 信弘、土井田 稔、永島 英樹、
中村 雅也、西田 康太郎、根尾 昌志、橋爪 洋、波呂 浩孝

【出席した監事】小澤 浩司、播広谷 勝三

【議事の経過の要領及びその結果】

会議は理事長・波呂浩孝が議長となり、web で行われた。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

修正等ある場合は大鳥理事へ一報する。

2. 専門医制度委員会：基幹研修施設の新規申請の結果

脊椎脊髄外科専門医研修プログラム基幹研修施設の審査を行った。委員会案通り、新規申請施設のうち11施設が合格、1施設が不合格となった。

3. 脊髄モニタリング委員会：安藤委員委嘱解除の件

現在の委員には名古屋大学のメンバーが複数在籍しているため、名古屋大学の安藤圭委員の委嘱を解除し、新たに中西一義評議員(日本大学)が推薦され、承認された。

4. 新技術評価検証委員会

1) 仙腸関節固定ガイドライン名称変更の件

ガイドラインは、日本医療機能評価機構のMinds診療ガイドライン作成マニュアルに準拠した内容でないと正式に認められない。準拠のためには日整会を通す必要があるが、そのような時間的な余裕がないことや、現在作成中の内容は「ガイドライン」という名称よりも「適正使用基準」が合致しているため名称の変更が提案された。審議の結果、提案通り「適正使用基準」に変更することが承認された。

2) 仙腸関節固定適正使用基準におけるCOI開示の記載方法

前回理事会で議題となった、委員のCOIをガイドラインへ開示することについて、COI

を学会の規程に基づいて収載した事実は掲載するが、各委員のCOI詳細は掲載しない方向とすることが提案され、承認された。

竹下理事より、日整会としては今後企業名は掲載する方向と説明があった。当学会は日整会に合わせて対応していく方針が確認された。

5. メンバーシップ・コンプライアンス委員会：6月分会員審査

6月の入退会について全員を承認した。

6. 脊椎関連学会連携促進委員会

1)SWJ (Spine Week Japan) 法人化の設立時メンバーについて

2025年秋に開催するSpine Week Japan2025は6学会合同で開催するが、事務的な運営と金銭マネジメントの観点から、SWJ (Spine Week Japan) として法人を立ち上げる予定である。6学会の理事長を中心とした設立時役員についての資料が提示され承認された。

2)初期費用や事務員給与等

SWJ法人設立時の初期費用や事務員への給与等経費が発生するが、設立当初の金銭事情を鑑み、当学会からキックオフ費用を寄付する想定でいること、SWJが軌道に乗れば将来的に寄付返金の予定としていることが説明され承認された。

審議・報告事項

1. 専門医制度委員会報告

委員会でNSJと脊椎脊髄外科専門研修制度整備基準の見直しを行い、8月末までに専門医機構へ提出予定である。

脊椎脊髄外科専門医の更新についてその方法を精査しており、e-ラーニングのプロセス等について検討中である。また、現在のカリキュラム内容の改正のためNSJとすり合わせ中である。

2. 国際委員会報告

1)ワールドヘルスサミット in ローマにて Spine20 のシンポジウムが HP に掲載された。当学会から Spine20 へ 1000 ユーロ (約 13 万円) を拠出した。

2)Spine20 in バリに伊東理事と玉井委員が参加予定である。8月4日から聴講できるので参加してほしい。

3)2023年第52回JSSR学術集会よりアジアの招聘候補の推薦が欲しいと依頼があった。中村雅也副理事長にも意見をもらい、委員会から10名推薦して種市会長に報告した。

4)Spineweek2023はメルボルンで開催される。当学会ではプログラムを再考し3つのシ

ンポジウムを応募予定である。

5) Asia Traveling Fellowship 再開について現在委員会で相談しているところである。

6) 次期の Spine Across the Sea については渡辺雅彦次期会長と相談して進めていく。

3. 新技術評価検証委員会報告

1) 形骸化している XLIF 症例報告は終了とすることが委員会内で決まった。現在進めている5年間の合併症調査解析の論文化完了時点を目安にしており、その時点で厚労省に相談する予定である。

2) セメント注入型スクリューについて、新しくPPSでセメントスクリューが出るが、問題ないとして委員会で承認した。短椎間固定に使用したいという声もあるようだが、適応範囲を広げると使用方法が乱雑となる可能性があるため適応拡大は認めないこととした。一方、これまでUIV, LIVに使用していたが、UIV-1, LIV-1については、1例に対する使用本数を変えないことで適応拡大を認めた。

3) 頸椎人工椎間板について、脳外科との合同委員会で、2椎間の一般使用が開始され、ハイブリッドでの限定施設使用に関する文言改定を議論する予定である。

4) XLIF-ACRを一般公開する際の施設基準、宣誓書、受講証明書について、委員会で承認した。

5) 仙腸関節固定術について、安全性（特に血管損傷）とCOIに関する改定について今後協議していく。

6) WGのメンバー選定に関して、WGメンバーはCOIの開示が必要であるため、各委員に提出を求めることが確認された。COI委員会と相談のうえで、COIのある委員の各WGへの関わり方を議論して進めていく予定である。

4. データベース委員会報告

JSSRデータベースにはいくつかの不具合があり現在改修中である。改修完了後はデータをクレンジングし、修正が必要な場合は入力した施設に連絡する。

現在のDB登録は2万件を超えている(7月1日現在)。昨年と比較すると少なくなるかもしれないが、目標となる15万件を目指すため、引き続き協力をお願いしたい。

5. JSR編集委員会報告

当学会の投稿システムではオンライン査読システムを使用しているが、JSR関連7学会も同様に使用できるか、各学会の利用希望があるかを委員会で確認している。併せて杏林社へ運用方法とJSR関連7学会も使用した際の経費を確認している。

6. 広報委員会報告

理事長挨拶の動画等ホームページの更新状況が報告された。動画制作には費用が発生し

ているが、広報委員会の支出とすることが確認された。

7. メンバーシップ・コンプライアンス委員会

継続審議の除名予定者について学会顧問弁護士2名に相談した結果が報告された。

竹下理事より、同問題についての日整会の状況が報告された。

8. その他

1) 脊椎脊髄手術におけるWSSSの発生頻度等に関するアンケート調査の論文について論文の数字の齟齬について再チェックする。また、レベルエラーの回避方法についても論文に書くべきとの意見があったが、今回のアンケート結果のみではそこまでの検討は難しく、論文化が難航している。波呂理事長より、必要があればE理事会等でも対応するとの発言があった。

以上

令和4年7月11日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 波呂浩孝

監事 小澤浩司

監事 播広谷勝三